

おおの誠一郎

議会報告と提言

発行責任者 大野誠一郎（龍ヶ崎市議会議員）



龍ヶ崎市宮淵町61
TEL 090-5780-6113

① 道の駅問題について

道の駅は不要！ 負の遺産である！

縮小した道の駅は、事業費17億円。借入金は75%。運営費4,800万円。負の遺産である。

「公約」破り！ 道の駅 縮小して継続 決定！

萩原市長は、再検証の結果、3月24日、道の駅整備事業を縮小して整備、継続することを決定した。萩原市長は、令和2年12月の選挙の時、「道の駅は中止する」とした上で支持を集め、当選した。明らかな「公約破り」。市民に対しての裏切り行為。（市民の声）

中途半端な計画に約17億円！

中途半端な計画に、中途半端な「再検証」をして更に計画を縮小して、更に中途半端な計画を約17億円で事業化するとは考えられない

ボールは「議会」、「市民」に！

ボールは「議会」、「市民」に投げられた。予算（お金）の決定は議会。市民の皆さんに選ばれる議員の過半数の賛成、反対で最終的に決定。市民の皆さんには議員の賛成、反対の立場を聞いて選択して欲しい。

認知度アップ？「駄目な道の駅」！

道の駅の目的は認知度アップである（市長説明）。龍ヶ崎市が認知度アップしても、「駄目な道の駅」の認知度アップでは、イメージダウンであり、多額の予算を投じて、マイナスイメージになる。

私は反対！

道の駅は、後の借入金の返還と管理運営費の負担があり、負の遺産である。人口減の龍ヶ崎市には、借入金の返済、管理運営費の負担が重い。

裏面②旧城南中跡地活用問題へ

② 旧城南中跡地活用について

旧城南中跡地 安値で売却か？

今年度4月1日、城南中と愛宕中が統廃合（合併）し、愛宕中学校に城南中学校の生徒が入校して「龍ヶ崎中学校」が誕生。残ったのは、旧城南中の跡地、校舎、体育館の跡地活用。安値で売却か？

土地 6億超、建物 5億超

龍ヶ崎市より、不動産鑑定士（鑑定料99万円）が依頼された資産評価。旧城南中の不動産評価額は、土地6億超。校舎、体育館5億超。合計11億超。

売却の場合—土地建物の最低価格設定、約6億円！ 貸付の場合—約2,000万円/年（賃借料）

「11億超」の土地、建物の最低価格が約6億円。半額。約2,000万円/年の賃貸料は、市の固定資産評価額の2パーセントの計算

通常は、不動産鑑定評価額での売買！

市はこれまで、土地、建物を買うときは、不動産鑑定士に、資産評価の鑑定を依頼し、高い鑑定価額が示されても、購入している。例、旧常陽銀行の用地、建物。旧茨城銀行跡地、。新給食センター用地は鑑定評価額の通りで購入。

買う時は、高値。売る時は、安値。

これでは、予算（財源）が不足しがちとなり、市民本位の独自の政策が出来ない。土地、建物付では、11億超では、売却できないと配慮した結果と思うが、納得がいかない。

旧城南中の売却資金は何処へ！

「売却」という想定内の範囲であるが、旧城南中の、売却資金は「道の駅」の事業費の一部になる。道の駅の整備費用は旧城南中を呑み込んでも、足りない。

松葉小、長山小も同じ手法か？

松葉小学校と長山小学校は、令和9年度に統廃合。松葉長山小学校と長山中と一緒にあって、施設一体型小中一貫校が進んでいる。閉校になる松葉、長山小学校の校舎、校庭も同じ運命をたどるのか？それとも地域住民の英知、工夫で、新しいチャレンジにいくのか？